

(3) 審査員

湯山 昭、関屋 晋、北村協一

(4) 参加団体

大学 2、職場 1、一般 6、高校 41、計50団体 2,303名

(5) 優秀校

- ① 高校の部 郡山女子大附属高校、桜の聖母学院高校、福島成蹊女子高校、若松、安積、郡山、会津女子高校、南会津、保原、飯坂、福島、磐城、会津、湯本、安達各高校、福島西女子高校、会津農林高校、平工業高校。
- ② 大学の部 福島大学教育学部、同経済学部
- ② 職場の部 呉羽化学合唱団
- ④ 一般の部 飯坂混声合唱団、福島グリーンクラブ、FMC混声合唱団、あかべこ。

(6) その他

- ① 上記団体は、10月24日～25日県文化センターにおいて行われた東北大会に出場。
- ② 全日本合唱コンクールにおいて、次の団体が入賞した。金賞、FMC混声合唱団（3度目）会津農林高校（初回）銅賞、福島西女子高校。

### 8. 第8回吹奏楽コンクール

県吹奏楽連盟およびいわき市教委と共催のもとに実施したが、参加団体70の大会を越したことは、本年度の成果である。

(1) 期 日

昭和45年9月21日～22日

(2) 会 場

いわき市平市民会館

(3) 審査員

片山正見、大石 清、藤田玄蕃

(4) 参加団体

中学校36、高校36、職場 1、一般 1、大学 1、計75団体。

(5) 入 賞

- 中学校Bクラス 第一位 桑折町立醸芳中学校
- 中学校Aクラス 第1位 いわき市立平第一中学校
- 中学校の部総合優勝 いわき市立平第一中学校
- 高等学校Cクラス 第1位 福島県立平商業高等学校
- 高等学校Bクラス 第1位 福島県立磐城高等学校
- 高等学校Aクラス 第1位 福島県立安積高等学校
- 高等学校の部総合優勝 福島県立安積高等学校
- 職場の部 第1位 福島製作所
- 一般の部 第1位 猪苗代青年団
- 大学の部 第1位 福島工業高等専門学校

### 9. 文化功労賞

芸術、科学の分野において、多年にわたり本県文化の向上に功績のあった者を表彰する文化功労賞は、11月3日（文化の日）県文化センターにおいて、その受賞式が行われた。

(1) 受賞者 2名

- 佐藤 民宝 福島市瀬上町東町3-3-8  
明治45年3月3日生  
(推せん者) 福島県文芸誌協会(外)  
代表 三谷 晃一

戦前農民作家として本県の農村を題材とした作品を数多く発表し、戦後は、県内の文芸誌盆地、少数派および福島文学を創刊、その同人として活躍した。

また、県の各種委員をつとめるかたわら、会津ペンクラブ、県文芸誌協会等を結成し、後進の指導育成につとめるとともに、自ら創作の実践水動を通じて、本県文学の振興に多大の貢献をされた。

高野 広治 福島市柳町1-22

大正12年6月28日生

(推せん者) 福島市文化団体連絡協議会(外)

会長 平井 博

昭和22年戦後の混迷した社会のなかにあつて、FMC混声合唱団を創立し、爾来今日までパレストリーナのFMCとして全日本合唱コンクール連続優勝する等、日本の代表的合唱団に育てあげた。

また、昭和45年7月初のアメリカ公演を行ない、合唱を通じ 民間外交の大任を果たす一方、音楽の普及活動につくし、演奏会、へき地巡回等合唱水準の向上に努力するとともに、県内の合唱団体組織の強化と後進の指導育成に多大の貢献をされた。

### 10. 文化振興会議

本年度は、下記にもとづく会議を新設し、6月と2月（知事出席）の2回開催した。

(1) 福島県文化振興会議規約

第1条 福島県芸術文化の振興に関し、福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という）の諮問にこたえるため、福島県文化振興会議を設ける。

第2条 本会は、本県芸術文化水準の格差を是正し、特性にある芸術文化の育成をはかる振興方策を研究協議し、もつて物心両面にわたる豊かな県土建設を図ろうとするものである。

第3条 本会の委員は、芸術文化関係機関、団体および学識経験者から教育長が委嘱し任期は1年とする。

第4条 本会には委員の互選により議長および副議長各1名をおき会議を主宰する。

第5条 本会に関し必要な事項は別に定める。

(2) 委員名

① 県単位文化団体代表

- 県 美術 家 連 盟 渡辺 到源
- 県 おかあさん 合唱連盟 太田 緑子
- 県 演 劇 協 議 会 平井 博
- 県 文 芸 誌 協 会 佐藤 民宝
- 在京福島県美術家協会 春日部たすく

② 地域文化団体代表

- 福島市文化団体連絡協議会 高野 広治
- 会津若松市 " 星野 正三
- いわき市 " 若松光一郎
- 白 河 市 " 熊田 孟男
- 原 町 市 " 門馬 直孝
- 郡 山 市 " 鈴木 伝

③ 学識経験者

- 角田林兵衛
- 一条 和一